

研究の概要

20 25 年 9 月 17 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名：	移植する胚は児の発育に影響するか
代表研究者 (所属・氏名)：	中岡義晴
研究の目的：	高度生殖補助医療（ART）による出生児が増加し、予後調査の重要性が高まっている。以前の研究でART、non-ART間や凍結融解胚移植、新鮮胚移植間で発達や発育に差はみられないという報告をした。 一方で、胚の培養日数や胚評価の影響を検討している報告は少なく、また移植時の患者説明でも質問が多く見受けられる。 そこで今回の研究では移植する胚の発育段階や評価が、児の発達や発育に及ぼす影響を検討した。
調査データ該当期間：	20 19 年 1 月 1 日 ～ 20 19 年 12 月 31 日
研究の方法 (使用する試料/情報等)：	クリニックにて2014年から2019年までに単胎妊娠分娩し、アンケート協力で同意を得た夫婦を対象とした。出生時の体重及び男女比と、1歳半と3歳それぞれの年齢における、体重、身長、発達指数（運動、操作、理解言語、表出言語、概念、対子ども社会性、対成人社会性、しつけ、食事（1歳半のみ）、総合）を分割期胚移植と胚盤胞移植で比較した（検討1）。また胚盤胞移植において内部細胞塊（ICM）と栄養外胚葉（TE）の評価に関しても同様の検討を行った（検討2）。なお発達指数はKIDS乳幼児発達スケールを用いている。
個人情報の取り扱い：	研究に関する情報には別途、管理番号を与え、管理記録台帳の治療IDと照合しなければ情報が得られないようにする。患者情報はカルテにアクセスし、治療IDで照合しないと得られないため、2段階で保護する。
本研究の資金源 (利益相反)：	利益相反なし
お問い合わせ先 ：代表電話 ：担当者(部門・氏名)	06-6978-8824 生殖技術部門・中野達也
備考	